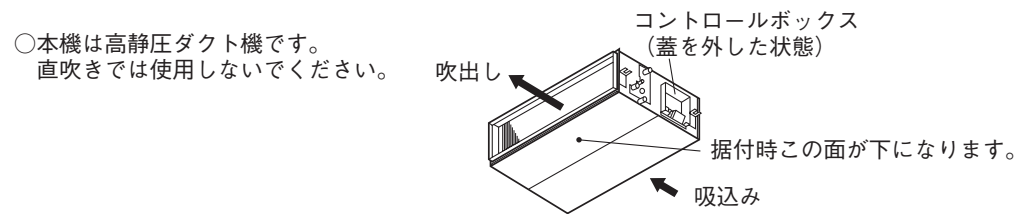


高静圧ダクト形・給気処理ユニット 据付工事説明書

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
「安全上のご注意」および「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」をご覧ください。
●電気配線（室内ユニット）は、電気配線工事説明書をご覧ください。
●リモコンの取付方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
●ワイヤレスキットの取付方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。
●安全遮断弁の取付け方法は、安全遮断弁付属の説明書をご覧ください。
●冷媒検知警報器の取付方法は、冷媒検知警報器付属の説明書をご覧ください。
●室外ユニットの据付方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
給気処理ユニットの場合
●他のエアコンユニットとの全接続容量は、50～100%（全給気処理ユニットの容量）にしてください。
●単独で給気処理ユニットを接続することができます。給気処理ユニットの接続容量は50～100%にしてください。
室外機に接続できる給気処理ユニットは最大2台です。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また海外においてはアフターサービスもできません。
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

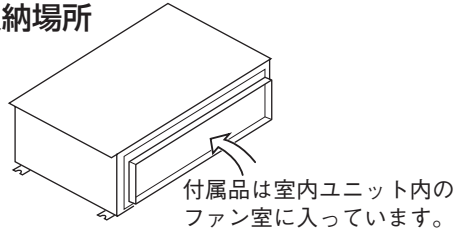


①据付けの前に

- 据付はこの据付け説明書に従って正しく行ってください。
- 次の項目を確認してください。

○機種・電源仕様 ○配管・配線・小物部品 ○付属品

付属品収納場所 (梱包時)



付属品

本体吊り込み用	冷媒配管用					ドレン配管用				コントロール用
平座金 (M10)	ねじ接合継手 (大)※	ねじ接合継手 (小)※	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	バンド	パイプカバー (大)	パイプカバー (小)	ドレンホース	ホースクランプ	解除ピン ※
8 個	1 個	1 個	1 個	1 個	4 個	1 個	1 個	1 個	1 個	1 本
室内ユニット 吊り下げ用	ガス管 接続用	液管接続用	ガス管 断熱用	液管断熱用	パイプカバー 固定用	ドレンソケット 断熱用	ドレンソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレンホース 取付用	インターロック 解除用

※ R32 ビル用 マルチ機のみ付属しています。

②室内ユニットの据付場所の選定

- ①据付場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ・冷風または温風が十分に行きわたる所。据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・据付・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・侵入外気の影響のない所。
 - ・直射日光の当たらない所。
 - ・周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
 - ・ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。
 - ・テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・室内ユニット真下に食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器等濡れて困るものを置かない所。
 - ・調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・フライヤーの真上など油・粉・蒸気等を直接吸込まない所。
 - ・蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ②据付けようとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。

②室内ユニットの据付場所の選定のつづき

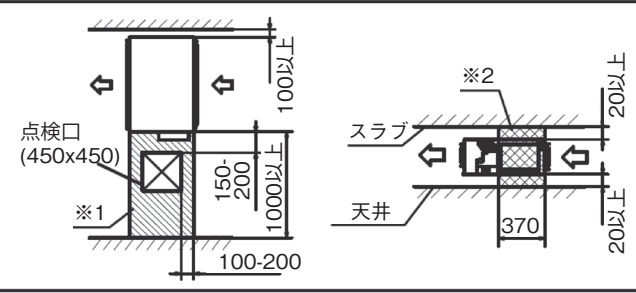
室内ユニット据付スペース

- 据付高さは2.5m以上としてください。

※この室内ユニットは「一般大衆が近づかない機器」に分類されます。

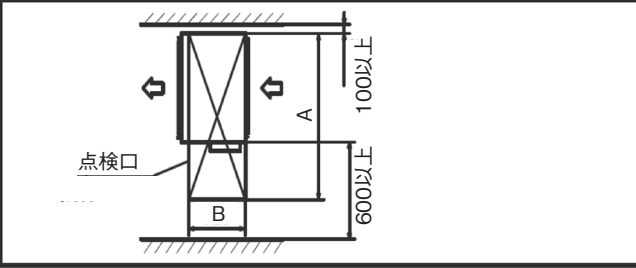
据付時、サービス時のために下記2ケースのどちらかを選んでください。

(ケース1)室内ユニット側面からメンテナンスする場合 単位: mm



- ※1 ファンモータを側面へ引き出す構造となっております。障害になるものを設置しないでください。(印箇所)
- ※2 印箇所を横切らないように冷媒配管、ドレン配管、電気配線を設定してください。

(ケース2)室内ユニット下面からメンテナンスする場合 単位: mm

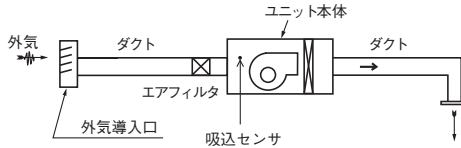


(点検口サイズ)

	単位: mm		
店舗シリーズ	50, 56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71-90	112-160
給気処理ユニット	—	90	140
A	1100	1300	1720
B	620	725	

③給気処理ユニットの据付時の注意

- ①給気処理ユニットは吸込センサの検知温度とリモコン設定温度に基づき、発停を制御しております。
リモコン設定温度は発停を制御する外温を示しています。冷房モードでは、サーモOFFとなると、外気を直接室内に吹出す送風モードに変わります。



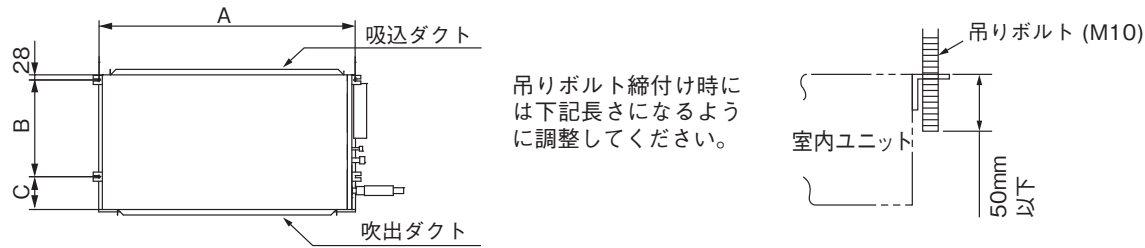
- ②給気処理ユニットは外気を直接吹出す場合がありますので、直接室内の人に風を当てないように配慮ください。
- ③ユニットは外温を検知して発停を制御しますので、リモコン設定温度の変更で室温を調整しないでください。冷房運転時にリモコン設定温度を下げ過ぎた場合、結露水が滴下する可能性があります。
- ④一般の人がリモコン操作することを避けるため、給気処理ユニットのリモコンは管理者だけが操作できる場所に設置してください。

お客様に製品をお渡しする際には、上記の注意事項、給気処理ユニットを操作するリモコンの設置場所、吹出口に位置をお知らせください。

④据付け前の準備

- 吊りボルトの長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10）を4組現地にて手配してください。

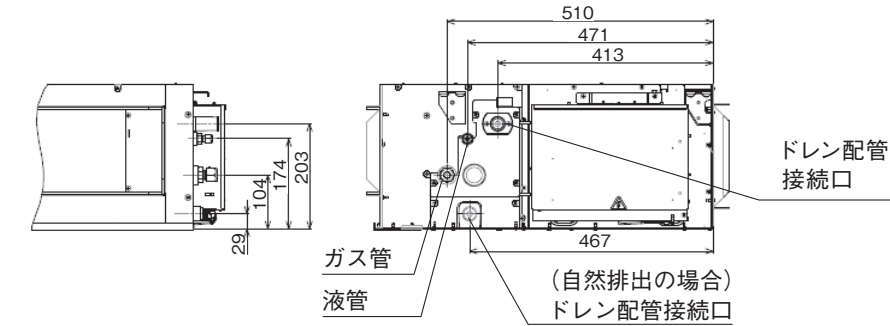
吊りボルト位置、配管位置、ダクト寸法



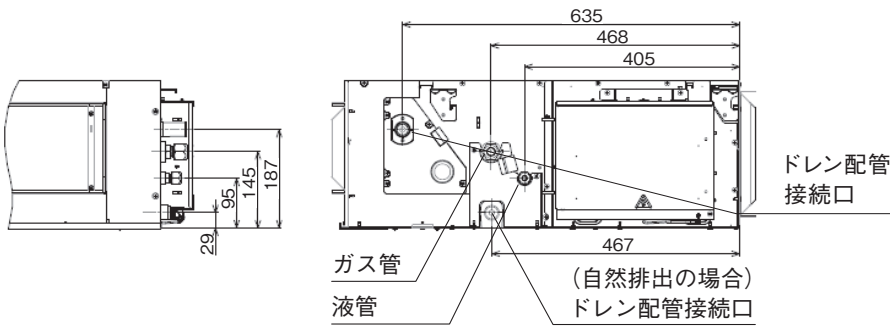
	単位: mm		
店舗シリーズ	50, 56	63-80	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-56	71, 90	112-160
給気処理ユニット	—	90	140
A	786	986	1404
B	472	472	530
C	135	135	180

④据付け前の準備のつづき

店舗シリーズ	50-80
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	22-90
給気処理ユニット	90



店舗シリーズ	112-160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	112-160
給気処理ユニット	140



⑤室内ユニットの据付け

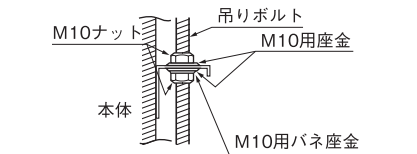
作業手順

1. 据付場所に天井開口寸法をあけてください。
2. 所定の位置に吊りボルトを設置してください。
3. 吊りボルトは4本使用してください。
4. ご使用のパネルに合うように、室内ユニット吊り込み高さを調節して下さい。
5. 室内ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(室内ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
6. 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締め付けて室内ユニットを固定してください。

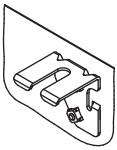
据 付

〈吊り込み〉

○室内ユニットを吊り込んでください。



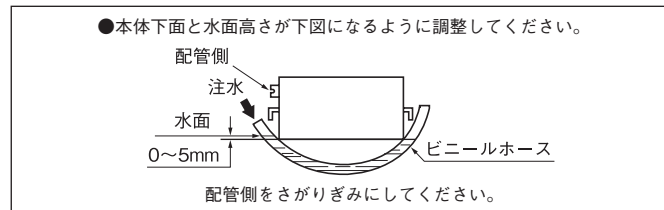
○本体を据え付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

お願い

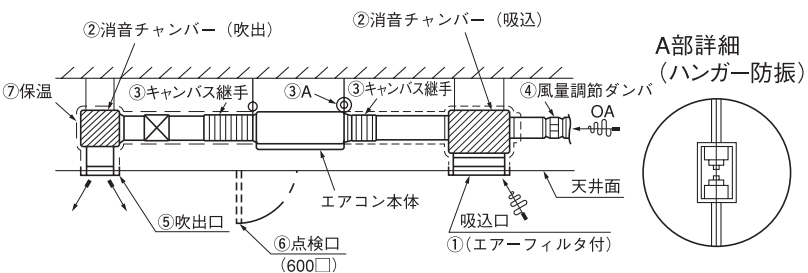
○水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



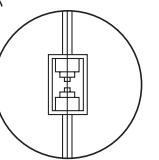
○水平度がでていないとフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

⑥ダクト工事

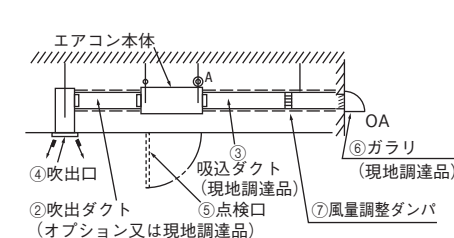
高静圧ダクト (FDU)



A部詳細
(ハンガー防振)



給気処理ユニット (FDU-F)



⑥ダクト工事のつづき

- ① エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルにエアフィルタを組込んでください。
- ② 消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。(事務所、会議室などでは必ず取付けること)
- ③ エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンパス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
- ④ OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風量調節ダンパを取付けてください。
- ⑤ 吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
- ⑥ 天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
- ⑦ ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは65mm (JISA9501) です。
- ⑧ 送風機 (ファンモータ) に手が触れないようにダクトを接続してください。または吸込側を直吸込みで使用する場合は吸込口にエアフィルタを取り付けてください。
- ⑨ 下表の風量限界を考慮してダクトの寸法を決めてください。

＜風量限界＞

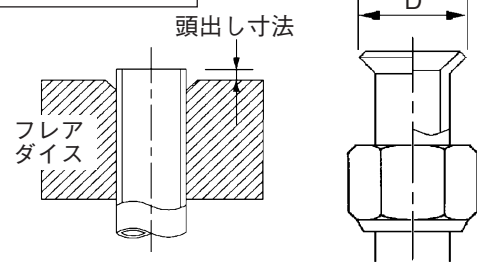
最大風量 (m³/min)	店舗シリーズ	P50-56	P63-80	P112-160
	ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ	P22-56	P71-90	P112-160
高静圧ダクト形ユニット	吸気処理ユニット	14.5	27	53
		-	15	25

⑦冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。
- 冷媒配管の接続方式は、「微燃性冷媒取扱時の安全上のご注意」に従い選定してください。
ねじ接合継手により接続する場合は、ねじ接合継手に付属の説明書に従い作業してください。
- フレア接続する場合、フレアナットは製品付属ものをご使用ください。他のフレアナット (1種) を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
1) 再利用する場合、フレアナットやねじ接合継手は流用せず必ず未使用品を使用してください。
2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管を室内機に接続してください。

フレア接続準備



配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		リジッド (クラッチ式) R32用 R410A用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。

また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。

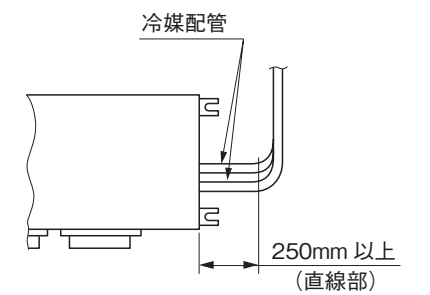
冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。

- R32またはR410A以外の冷媒は使用しないでください。
室外ユニット表示以外の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。

- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともろう付けする直前までシールしてください。

冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。

- 工具はR32用またはR410A用の工具を使用してください。

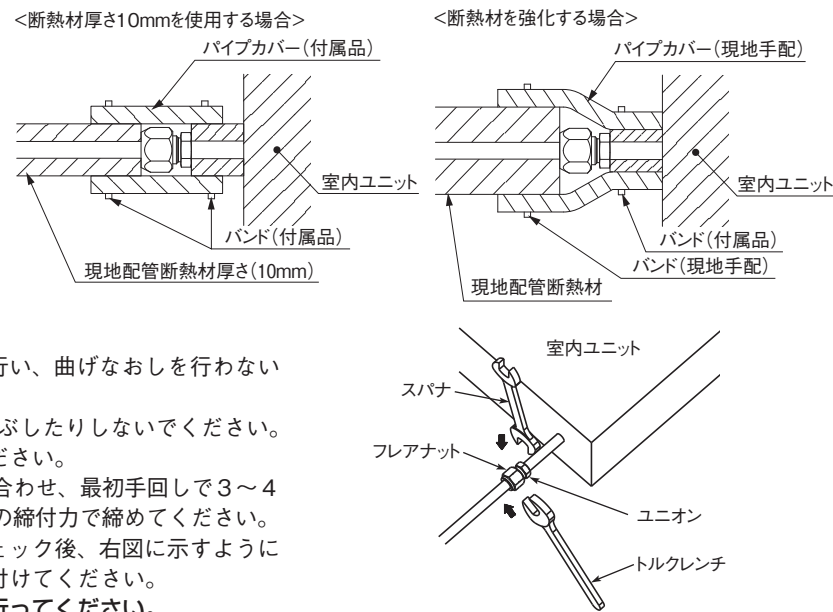


お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とって行ってください。(ドレンポンプのサービスに必要です。)

⑦冷媒配管のつづき

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外してください。
※室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
※配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで上表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。
室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締め付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

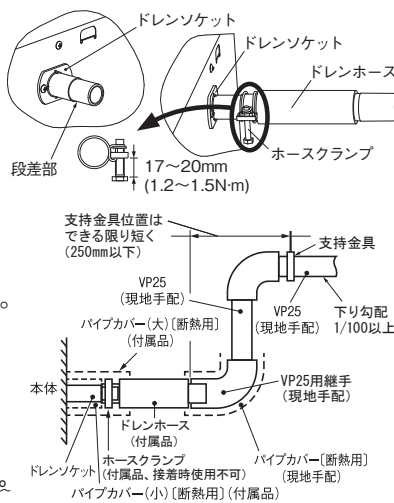
⑧ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
- ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。
- ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

ドレンソケットとドレンホースの接続

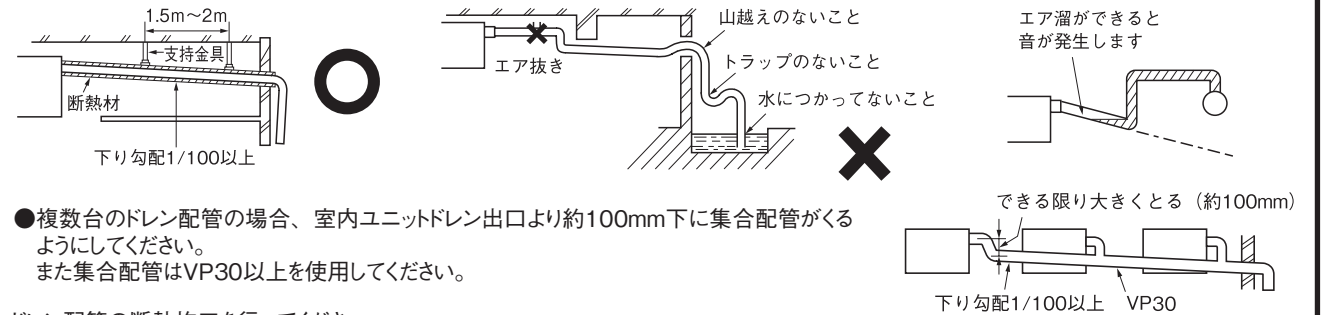
- ドレンソケットの周囲温度が50℃以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接着してください。
 - 接着剤とホースクランプは併用しないでください。
水漏れの原因となります。
- 〈ホースクランプを使用する場合〉
- 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
 - ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締め付けてください。
 - ねじを数回回転させて締め付けが固くなる位置まで締め付け、それ以上に締め付けしないでください。ねじの締め代の目安は17～20mm(参考:1.2～1.5N・m)です。
- 〈接着する場合〉
- 塩ビ系接着剤を使用して、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
 - 接着方法は接着剤の使用方法に従ってください。
接着剤推奨品: 積水化学工業製エスロン No73S, クボタケミックス製タフダイン青
※フタル酸エステル類を含有している接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
 - ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。



⑧ドレン配管のつづき

ドレンホースと配管の接続

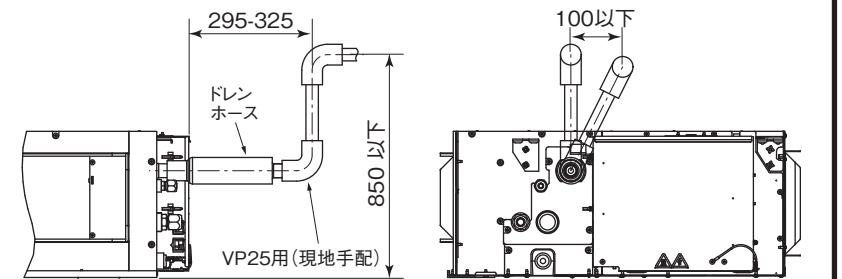
- VP25用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP25を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
- ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
- ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力が加わらないようにしてください。
できる限り室内ユニット近傍(現地手配の継手先端から250mm以内)でドレン配管を支持してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)としてください。不可能な場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。



- 複数台のドレン配管の場合、室内ユニットドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。
また集合配管はVP30以上を使用してください。
- ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、ホースクランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。

ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、本体下面より850mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。



ドレン排水テスト

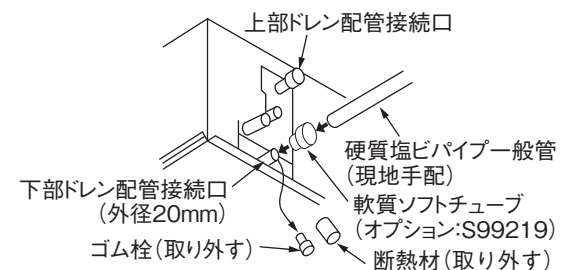
- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部および室内ユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据え付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

- 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約1000ccほどの水を注入してください。注水ホースを50mm位差し込んで注水してください。(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)
- ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
- 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



下部ドレン配管工事要領〔配管接続〕

ドレン配管に下り勾配(1/50～1/100)が可能な場合
下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



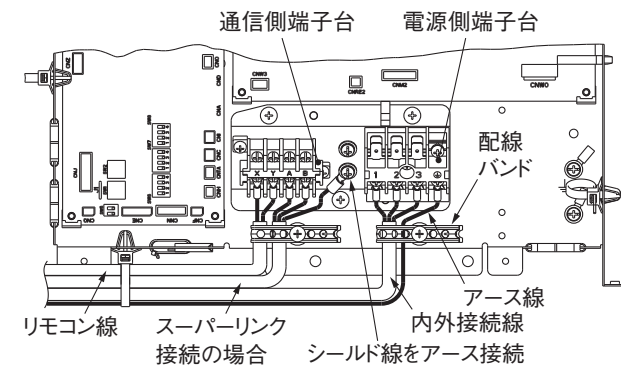
ドレンモータ用のコネクタ CNR の取り外し
下部ドレン配管を使用する場合に必ず必要です
コントロールボックス内のドレンモータ用コネクタ CNR を取り外してください。
(注: コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)

⑨電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
- 電源配線と通信配線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。

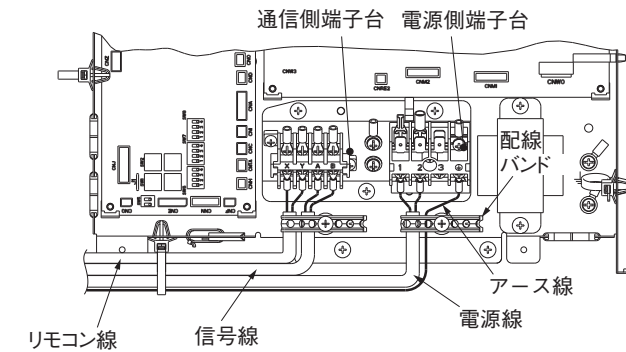
1. 電装箱の蓋（ねじ2本）を取外してください。
2. 各配線を室内ユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
コントロールボックスの蓋に貼付の結線銘板を参照ください。
3. 各配線をクランプで固定してください。
4. 取外した部品を元通りに取付けてください。

店舗機の配線接続

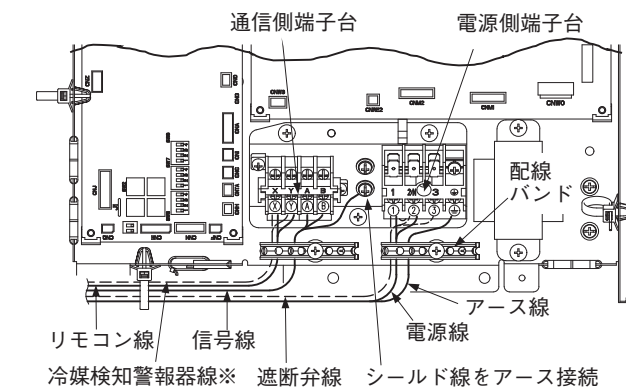


ビル用マルチ機の配線接続

(R410A マルチ機の場合)



(R32 マルチ機の場合)



※ 他社製の安全対策機器を接続する場合は電気工事説明書をご覧ください。

* 配線を引張っても動かないようにバンドで固定してください。

< メインヒューズ仕様 >

機種	仕様	部番
P45 ~ 90	T 5.0A L 250V	SSA564A149AH
P112 ~ 160	T 6.3A L 250V	SSA564A149AJ

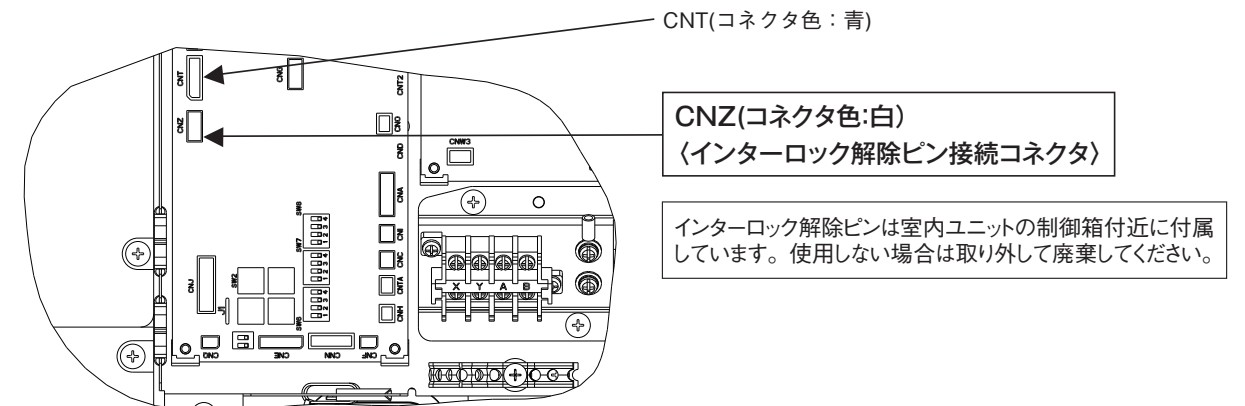
⑩インターロック機能（R32 ビル用マルチ機のみ）

- ビル用マルチ機の室内ユニットは、冷媒漏えいの安全対策のためにインターロック機能が有効になっています。
- インターロック機能が有効になっている場合、空調システムは運転できません。**
※インターロックが有効状態で運転しようとするときリモコンにメンテナンスコード (M28) が表示されます。

インターロック機能の解除方法

- すべての安全対策機器が必要な場合
下記のすべての安全対策機器を室内ユニットに接続してください。
 - ・安全遮断弁
 - ・冷媒検知警報器
 - ・eco タッチリモコン (RC-DX3D 以降)
- 接続する安全対策機器が一部のみ・安全対策機器が必要な場合
室内ユニットに付属のインターロック解除ピンを室内制御基板上のコネクタに接続してください。(下図参照)
※解除ピンの接続の前には、**冷媒漏えいに対する安全対策が十分であること**、もしくは**安全対策が必要ないこと**を必ず確認してください。
※冷媒検知警報器に子機として接続している室内ユニットのインターロック機能を解除するためには、解除ピンの接続が必要です。
※安全対策機器の要否、及びインターロック機能についての詳細は、「安全対策マニュアル」をご覧ください。

< インターロック解除ピンの接続コネクタ >

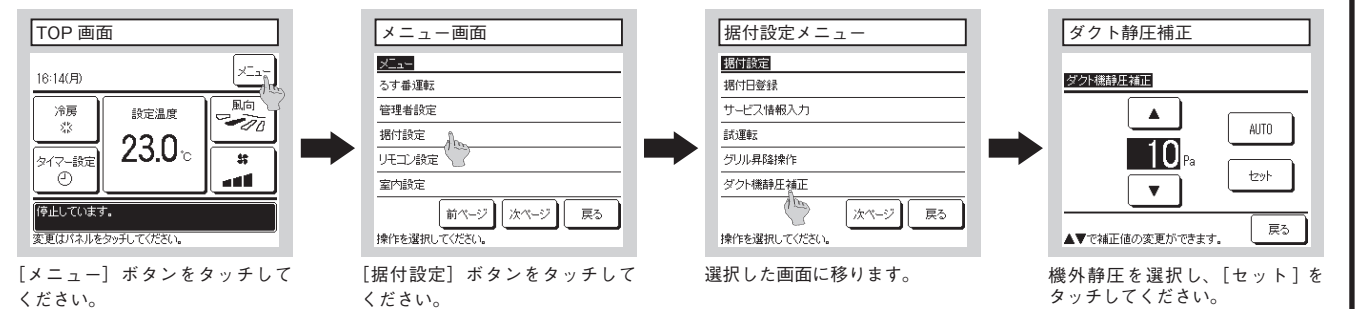


⑪機外静圧設定

ECOタッチリモコン（RC-DX2 以降）を使用し、機外静圧を設定することができます。
定格風量になるように各タップのファン回転数を変化させます。
店舗シリーズをツイン機として設定する場合は、室内ユニット同士が同一風量になるように個々に設定してください。

●ECOタッチリモコンからの設定方法

- ①メニュー画面より据付設定を選択し、サービスパスワードを入力します。
- ②据付設定メニューより、ダクト機静圧補正を選択します。
- ③“▲”、“▼”で機外静圧を設定し、“セット”をタッチしてください。
（“AUTO”を選択した場合には、150Pa で設定されます。）
詳細な設定方法については、ECOタッチリモコン付属の据付説明書を参照ください。
風量特性については、技術資料を参照ください。



[メニュー] ボタンをタッチしてください。

[据付設定] ボタンをタッチしてください。

選択した画面に移ります。

機外静圧を選択し、[セット] をタッチしてください。

注意

- ・RC-DX2 以降の ECO タッチリモコン以外からは設定できません。

⑪機外静圧設定のつづき

静圧設定上の注意

実際の機外静圧を計算し、設定してください。

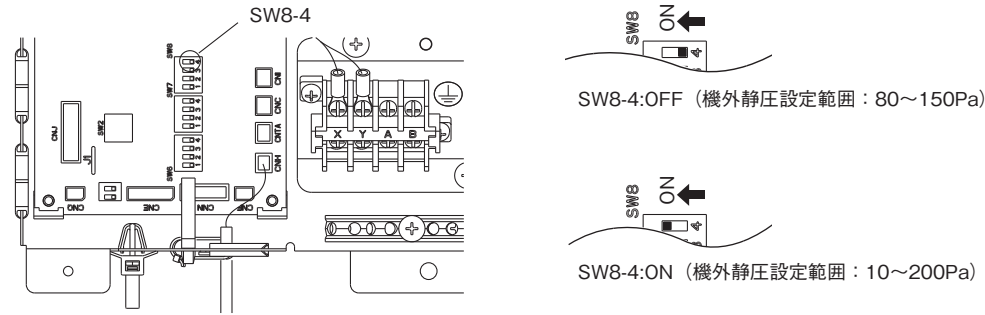
実際の機外静圧よりも機外静圧設定が高い場合には風量が過大となり、水漏れが発生する恐れがあります。また、実際の機外静圧よりも機外静圧設定が低い場合には風量が過小となり、不冷・不暖の原因になります。

工場出荷状態では上記のリスクを減らすため、機外静圧設定範囲を80-150Pa（給気処理ユニットは10-120Pa）としております。実際の機外静圧は80-150Pa（給気処理ユニットは10-120Pa）の範囲で使用してください。実際の機外静圧が80Pa（給気処理ユニットは10Pa）より低い場合には水漏れとなる恐れがあります。

（機外静圧設定を10～70Paで設定した場合、機外静圧設定は80Paとなります。

機外静圧設定を160～200Paで設定した場合、機外静圧設定は150Paとなります。また給気処理ユニットは130～200Paで設定された場合、機外静圧設定は120Paになります。）

また、コントローラのSW8-4をONにすることにより、機外静圧設定範囲を10-200Paに変更することが可能です。但し、上記リスクが高くなるため、実際の機外静圧を把握してない場合には使用しないでください。



⑫丸ダクト変換キット使用時の静圧設定について

丸ダクト変換キット(オプション)を使用する場合、工場出荷時の機内圧損に対して増加します。その為、機外静圧設定時には下表に従って設定してください。

例えば、80形の場合、機外静圧を100Paにする場合には、下表に従ってリモコンの機外静圧設定を110Paにしてください。

注意

- 機外静圧範囲は10-100Paとなります。この範囲内になるよう、下表に従いリモコン機外静圧設定を行ってください。
- ⑨機外静圧設定に示すSW8-4をONにして使用ください。
- 実際の機外静圧と設定する機外静圧が一致することを確認してください。異なっていると水漏れや不冷・不暖の原因になります。

丸ダクト変換キット使用時のリモコン機外静圧設定 対応表

店舗シリーズ		—	50,56	63	71-80	112	140	160
ビル空調、ガスヒートポンプシリーズ		22	28-56	—	71-90	112	140	160
オプション型式		U-UM-1A	U-UM-2A	U-UM-3A	U-UM-4A			
実際の機外静圧 (Pa)	10	20	30	10	20	20	30	40
	20	30	40	20	30	30	40	50
	30	40	50	30	40	40	50	60
	40	50	60	50	50	50	60	70
	50	70	70	60	60	60	70	80
	60	80	80	70	70	70	80	90
	70	90	90	90	80	80	90	100
	80	100	100	100	90	90	110	110
	90	120	110	110	100	100	120	130
100	130	120	120	110	110	130	140	

⑬室内ユニット据付工事完了後のチェック項目

●室内ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

R32 ビル用マルチ機の場合、付属の「据付工事施工チェックリスト（R32 ビル用マルチ）」を用いて安全対策機器の確認をしてください。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	
機外静圧設定は完了していますか。	水漏れ、冷えない	

⑭店舗シリーズ機種容量統合機の場合

室外ユニットとの組み合わせにより下表の通り室内ユニット容量が自動認識されます。機種名銘板の機種容量に○印を付けてください。

室内ユニット	室内ユニット1台接続							2台接続					
室外ユニット	50	56	63	80	112	140	160	80	112	140	160	224	280
FDUZP56	P50	P56						P40					
FDUZP63			P63						P56				
FDUZP80				P80						P71	P80		
FDUZP112					P112							P112	
FDUZP160						P140	P160						P140